

学 び 舎 の 思 い 出

両親も祖父母も通ったあの学校、その思い出は尽きません。子どもたち、そして地域を強くつないできた学校は、たとえその姿を失っても、私たちの心の中に、いつまでも懐かしく鮮明に生き続けます。

浪江小学校

双葉郡浪江町大字権現堂字北深町 5



双葉地区の基幹校として 1万人を超える卒業生を輩出

浪江小学校は、1873（明治6）年、当時の中村藩の藩校「明倫館」に開設されました。その後、校名が数回改称。校舎は戦災や火災に遭っていますが、双葉地区の基幹校として1万人を超える卒業生を送り出しています。

校歌の作曲は、1907（明治40）年に浪江町に生まれた佐々木俊一氏によるもの。校歌の3番に登場する「若あゆ」は、成長する児童を象徴したもので、通知表のタイトルにも使われ永く受け継がれてきました。

受賞歴は、視聴覚教育優良校としてNHKより表彰1965（昭和40）年、優良PTA文部大臣賞受賞1988（昭和63）年、吹奏楽コンクールでの活躍など顕著な成績が残されています。

校 歌

作詩／作山 美八 作曲／佐々木 俊一

1. あおげば西の山青く
海風かよう空晴れて
朝日あかるくさす庭に
そびえる そびえる
浪江小学校
2. 丈六山の花よりも
ほまれをあげた人々の
あとを学びて年ごとに
のび行く のび行く
浪江小学校
3. 高瀬の川に若あゆの
おどれる力身にしめて
きたえ進まんほがらかに
かがやく かがやく
浪江小学校

沿革

明治 6年 6月	旧中村藩の郷校たる明倫館に浪江小学校を開校 (在籍：男子73人、女子0人)	平成20年 6月	福島県学校歯科保健優秀校受賞
19年	浪江小学校校舎新築	21年 11月	文部科学省指定 「小学校外国語活動実践研究授業」公開
20年 4月	浪江高等小学校と称す	22年 1月	全国交通安全優良学校受賞
23年	浪江尋常小学校と改称する	22年 4月	校庭芝生化着工
大正 5年 1月	校旗制定	23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業
8年 3月	浪江尋常高等小学校と改称し、校舎新築	23年 8月	二本松市の避難先にて浪江小学校開校、浪江中学校と合同開校式、学校再開（仮校舎／旧二本松市立下川崎小学校）在籍数 浪江小学校28人
昭和16年	浪江町国民学校と改称	24年 4月	平野博文文部科学大臣視察
20年 8月	戦災を受ける	24年 6月	電子黒板、デジタル教科書全学級導入
22年 7月	南校舎改築（東半分）	24年 10月	2年振りの運動会開催
28年10月	浪江、幾世橋、請戸、1町2カ村合併浪江町となる	25年 1月	浪江小学校ホームページ開設
28年11月	学制80周年記念表彰を受く	25年10月	OECD教育局長イッシンガー氏視察
29年 3月	保健体育の研究校として文部省より表彰受賞	25年12月	下村博文文部科学大臣視察
31年 2月	校歌制定、作詞／作山美八 作曲／佐々木俊一	26年 4月	津島小学校再開式、浪江小との合同授業開始
31年 5月	浪江、荻野、大堀、津島、1町3カ村合併し、浪江町となる	26年10月	ESD日本の優良事例30に「ふるさとなみえ科」の実践が紹介 B-1グランプリに浪江焼麺太国子ども大使として協力
36年11月	県教育委員会より浪江小学校PTAが表彰受賞	26年12月	第1回ふるさと創造学サミット参加 (以後、毎年度実施)
40年11月	視聴覚教育優良校としてNHKより表彰受賞	27年 7月	福島・三重子ども交流に参加
41年 9月	南校舎焼失	27年 8月	双葉郡「小学校絆づくり」に参加（以後、毎年実施）
42年 8月	南校舎8教室（鉄筋二階建）完成	27年12月	「なみえっ子カルタ」町長への贈呈式
47年 9月	優良交通安全学校として県知事より表彰受賞	28年 1月	「なみえっ子カルタ」クリアファイル全世帯に配付
47年12月	全日本リード合奏大会金賞受賞	28年 2月	浪江と多摩をつなぐ和太鼓コンサート参加
49年 3月	浪江小学校創立百周年記念式典	28年10月	浪江町町村合併60周年記念式典にビデオ出演 教育奨励賞努力賞受賞（時事通信社）
55年 8月	新校舎建築落成移転	29年 2月	「ふるさとなみえ科」授業公開
56年11月	学研教育賞受賞	29年 3月	「んだげんちょDVD」町長への贈呈式
57年 3月	屋内運動場完成	29年 9月	「かなえよう子どもたちの夢プロジェクトGO! GO! GO!」学校賞受賞
58年 5月	プール完成	29年12月	第5回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール全国大会出場
63年 3月	視聴覚室整備	30年 1月	文部科学省大臣、政務官視察
63年11月	優良PTA文部大臣賞受賞	30年 4月	なみえ創成小・中学校開校式で和太鼓演奏
平成元年10月	第13回福島県青少年赤十字指導者研修会並びに学校公開	令和 2年 2月	浪江と多摩をつなぐ交流のつどい参加
8年 4月	全日本・東北・県書写書道研究会研究指定	2年 3月	休校
9年10月	第38回全日本書写書道研究会福島「浪江」大会	2年 7月	浪江小学校学校見学会を開催
10年 4月	浪江小児童クラブ開設（学童保育事業）	3年 3月	閉校
15年11月	基礎学力向上推進支援事業授業公開		
15年12月	大規模改修第一期工事完了（北・東・西校舎）		
16年12月	大規模改修第二期工事完了（南・旧校舎）		
17年11月	学力向上パートナーシップ事業授業公開		
18年 9月	第49回全日本吹奏楽コンクール東北大会金賞受賞		
19年 6月	福島県学校歯科保健優秀校受賞		

「ふるさと追想」

浪江のころ通信

平成23年広報なみえ
7月号より抜粋



浪江小の校歌を忘れたくない

長竹 麻弘さん（小学6年）

僕は、震災後3日目に親戚のいる群馬県伊勢崎市に避難してきました。福島県から避難してきた人は僕一人ですが、新しい友だちがたくさんできました。

この前、関東に避難している浪江町の友だちと東京の上野で会いました。懐かしかったし、できたらもっとたくさんの浪江の友だちと会いたいです。

みんなはどこにいるのかな。担任の井戸川先生にも会いたいな。

こっちの小学校の校歌を歌うたびに、なんだか浪江小の校歌を忘れてしまう気がして、一度お母さんと大きな声で浪江小の校歌を歌ったりもしました。以前のように浪江の中央公園で野球をしたり、サンプラザに買い物に行ったり、浪江町に帰って普通の生活がしたいです。それまで家族と一緒に助け合っていきたいです。

震災前の学校の風景



鼓笛パレード



授業参観



校門



旧校舎



六年三組のみなさんへ（震災後）



震災前の校舎

震災直後の記録とその後

震災当日、教師・児童らは校庭に避難。混乱の中、保護者へ児童を引き渡す一方で、避難所の開設が進められました。情報不足、停電、そして寒さの中で住民は不安な一夜を過ごすことに。翌朝に出された避難命令により避難所は閉鎖。放射線への恐怖の中、津島地区へ。翌13日には、小学校6校・中学校3校のすべてが臨時休業となり、新年度からは区域外就学で対応しました。しかし、避難先の学校に通学しながらも、「浪江町の学校で学びたい」という子どもたちの声を受け、2011（平成23）年8月に浪江小学校は二本松市の旧下川崎小学校を仮校舎として再開しました。この校舎で子どもたちは児童全員で意見を出し合い、再び暮らせるふるさとをイメージし、「未来の住みたくなる町」の模型を作りました。

合い言葉は「小さな学校で 大きな感動を」——。ふるさとの豊かな自然や伝統、文化を残そうと2012（平成24）年度から総合的な学習の時間を中心とした「ふるさ

となみえ科」を創設し、教育の柱と位置づけました。さらに、2014（平成26）年度から双葉郡8町村で「ふるさと創造学」がスタート。自ら未来を切り拓く力と、ふるさとへの誇りを育むことをねらいに、地域を題材とした探求的な学習活動を展開しました。浪江町の伝統、風習、観光などを満載した「なみえっ子カルタ」、方言をちりばめた歌「んだげんちょ」などは、応急仮設住宅訪問や十日市祭での浪江町の人々の交流に一役買いました。



子どもたちが夢に描いた「未来の浪江町」



浪江小・浪江中合同開校式（2011年8月）



なみえっ子カルタ



会津若松市で子ども交流会（2012年7月）

浪江小学校休校式

2020（令和2）年3月23日

浪江小学校は1873（明治6）年に開校。震災・原発事故に伴って休業し、2011（平成23）年8月より二本松市立旧下川崎小学校の校舎を使って再開しました。

卒業式に引き続いて行われた休校式では、木村裕之校長が笠井淳一教育長に校旗を返納。最後の卒業生となった女子児童が「避難先の学校になじめず、二本松で再開した浪江小で笑顔を取り戻した先輩もいました。歴史が途絶えてしまうのは悲しいけれど、未来に向かって笑顔で進んでいきます」と述べました。

